

令和6年度 第4回中央市地域公共交通活性化協議会 議事録

日 時：令和7年3月6日(木) 午後1時30分～

場 所：中央市役所本館 2階 防災対策室1

出席者：12名（欠席者：6名）

赤岡会長 橋田委員 池田委員 北田委員 沼尾委員 窪田委員
鈴村委員（代理：服部氏） 矢野委員（代理：浅川氏） 古屋委員 齊藤委員
伊藤委員 加藤委員
（事務局：今福課長・土橋主幹・渡辺副主幹・二階堂主任）

会議概要

1 開 会

2 会長挨拶

3 議 題

（1）中央市デマンド交通実証運行について

（株）ケー・シー・エスより【実施計画（案）】に基づき、説明。

※計画骨子からの追加、修正点を中心に説明。

○質 疑

委員 A

質：足腰が弱く買い物や通院などの生活移動に困っている80歳代の高齢者と話をする機会があったが、デマンド交通への期待値はあると思う。

交通弱者だけでなく、足腰が弱った高齢者など移動が困難な人に対する対応や、万が一、事故等が発生した場合の利用者に対する保険についてはどのように考えているか。

答：実証運行のスタート段階では高齢者を中心としたサービス展開を想定している。個々の細かなニーズに全て対応することは困難と考えているが、実証運行において状況を確認していく。

必要に応じて、福祉タクシーやタクシーの利用を呼び掛ける必要もあると認識し

ている。

事故等への保険に関しては、運行事業者（タクシー事業者）の保険対応として考えている。

質：今回使用予定の車両は車いすの搭載が可能か。

一人での移動が困難な高齢者への対応は。

答：利用対象者について 16 ページ記載している「自身で車両の乗降が可能な方、もしくは介助者同伴により乗降が可能な方」を前提として考えている。

自身で乗降が困難な方は介助者に乗降のサポートをしていただく必要があるが、車いすは折りたたんだ状態で車両のトランクへ格納することが可能。

意：実証運行で必要なデータをしっかり収集してほしい。

委員 B

質：利用料金は 500 円で設定しているが、介助者が同乗する場合について、介助者も同額料金が発生するのか。

デマンド交通においても独立採算による事業展開は不可能と認識しているが、持続可能性の観点から、市による財政負担の考え方はいかがか。

答：介助者の料金については未検討であるため、今後検討したうえで実証運行開始までに決定する。

市の財政負担に関しては、将来的にも必要不可欠と考えている。

具体的な金額についてこの場で回答することはできないが、実証運行における利用状況や収支状況、満足度、その他導入効果等についても分析、評価、検証し、必要な財政負担を求めていく。

意：実証運行期間中においても継続的に市と協議をお願いしたい。

料金に関して、介助（者）を要する利用者の負担軽減のため、介助者は無料としてほしい。

委員 C

質：利用料金に関して、障がい者等への割引の考えはいかがか。

高校生の通学を支える交通を将来的に実現させていただきたい。

答：運賃について 15 ページに記載しているとおり、実証運行において割引制度等の

必要性を検証し設定を検討していく。

高校生への利用拡大についても実証運行の状況を鑑み検討していく。

委員 D

質：現行のとまチュウバスはいつまでの運行を予定しているか。

(運輸局への許認可や、乗務員の調整に一定期間が必要。)

答：デマンド交通実証運行の開始目標を令和 7 年 10 月としており、とまチュウバスに関しては数カ月程度の併用期間の後、運休を予定している。

とまチュウバスの具体的な運行期間については、3 月中に事業者（山梨交通）と協議予定。

会 長

質：参考までに、とまチュウバスの休止に必要な手続き及び期間について確認を。

委員 E

答：通常は半年前までだが、交通会議による協議が整っていれば 1 カ月前までの届出で対応が可能。

●まとめ

本日の意見を踏まえた実証運行実施計画に基づいて、来年度の実証運行開始に向けて引き続き取り組んでく。

(2) その他

事務局より

- ・来年度（令和 7 年度）事業計画及び予算審議（書面審議）について依頼

3 閉 会